



2021 United Nations Decade
2030 of Ocean Science
for Sustainable Development



ECOP
Early Career
Ocean Professionals

ECOP Japan オンライン調査レポート 2023: 結果と分析



作成:
ECOP Japan コーディネーター
田中 広太郎
森岡 優志

2024 年 4 月 1 日発行

Thanks go to all our
partners for all their
support in 2022-2023,
especially our funding
partners:



unesco

Intergovernmental
Oceanographic
Commission



Norad



www.ecopdecade.org

目次

はじめに	2
結果	3
回答者の構成	3
最終学歴と含まれるセクター	5
海洋10年の認知度とECOPに含まれるかどうか	6
海洋10年が目指す成果との関わり	8
ECOP Japan が抱える課題と今後の活動への期待	9
海洋あるいは若手専門家に関係する活動・ネットワーク	10
ECOP Japan が果たすべき/果たしうる役割	12
考察	13
まとめ・今後の方針	15
謝辞	16
参考文献	16
お問い合わせ	17
付録	17

はじめに

ECOP Japanは、海洋に関わる様々な分野（研究、教育、行政、産業、NPO/NGOなど）で活躍する、日本の海洋若手専門家（[ECOP: Early Career Ocean Professional](#)）のネットワークである。分野の垣根を超えて日本のECOPの活動を幅広く紹介するとともに、日本のECOPが抱える課題に役立つ情報や機会（イベント、就職、助成など）を提供し、海洋分野の未来を支える日本のECOPの発掘やネットワークの拡大を行うことを目指している。こうした活動を通して、国連海洋科学の10年(以下では海洋10年という)が目指す7つの海の成果に貢献していくことが、ECOP Japan が掲げるビジョンである。

具体的な活動として、日本の国内外におけるECOPの発掘とネットワークの拡大に向け、[ECOP Japan シンポジウム](#)の開催（2022年1月）や[Webページ](#)の開設、日本で活躍するECOPのビデオレター(7件)の収集、海洋10年に関する[国内シンポジウム](#)（2023年2月）での講演、などを行った。今後ECOPの活動をさらに発展させるためには、日本のECOPが抱える課題や海洋10年に対する期待などを収集し、対策を検討していくことが重要である。こうした背景を受けて、2023年6月に日本のECOPを対象に、海洋10年の意識調査をオンラインで実施した。

ECOP が抱える課題や期待を収集するためのオンライン調査は、他の地域や国で実施されつつある。例えば、[ECOP Asia](#)や [ECOP Canada](#)、[ECOP India](#)、[ECOP China](#)がオンライン調査を実施し、報告書を公開している。今回実施したECOP Japanのオンライン調査の質問項目は、これらのオンライン調査と互換性を持たせて設定し、さらに日本独自の内容を加えたものである（補足資料を参照）。質問項目については、海洋10年のECOPコーディネーターと議論を行い、確定した。

本調査の配布にあたっては、コーディネーターが所属する組織や関係する学会、ネットワークなどのメーリングリストを主に利用した。また、海洋10年のECOP コミュニティが毎月発行するニュースレターへの掲載も行った。できるだけ多くの若手専門家から回答を収集することを目指し、リンクの二次配布も奨励した。

以下、調査結果について報告するとともに、他国での調査結果も含んだ考察を行う。

結果

回答者の構成

本調査に対して、計55名からの回答が得られた。回答者の男女比は、男性39名（70.9%）、女性14名（25.5%）、「回答を希望しない」が2名（3.6%）であり、男性が過半数を占めていた（図1）。回答者のうち51名（92.7%）が日本出身であり（図2）、また52名（94.5%）が日本在住であった（図3）。55名の回答者のうち、12名（21.8%）が東京在住と最も多く、次いで11名（20.0%）が神奈川在住であった（図4）。

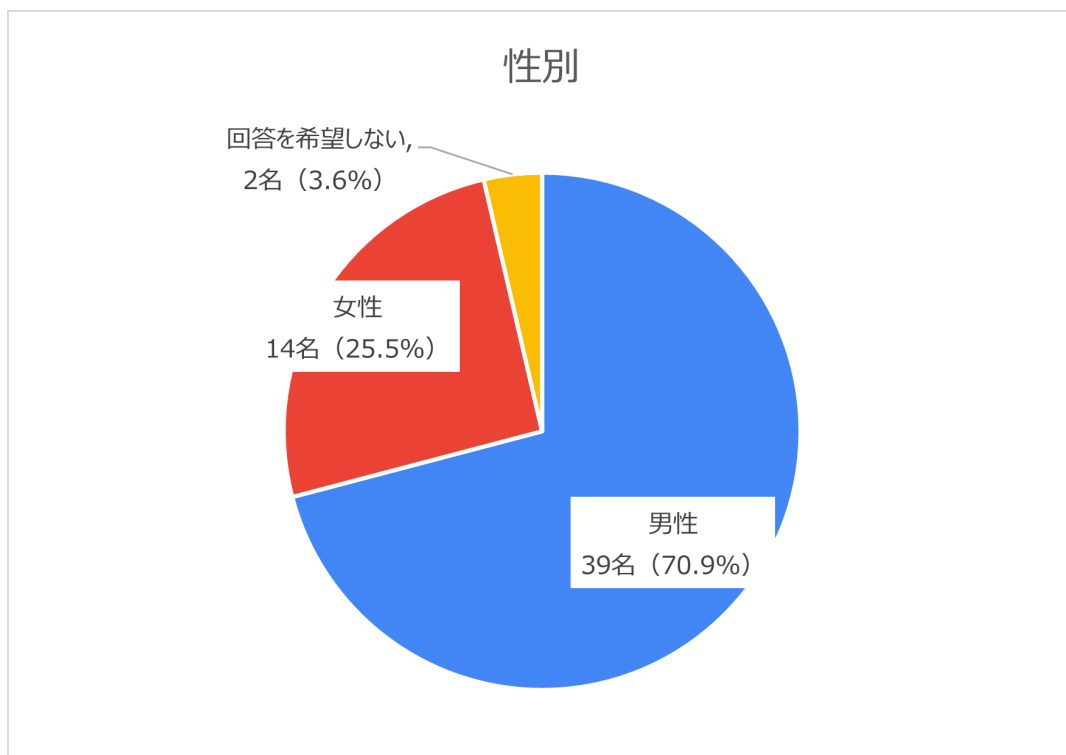


図1 回答者の性別

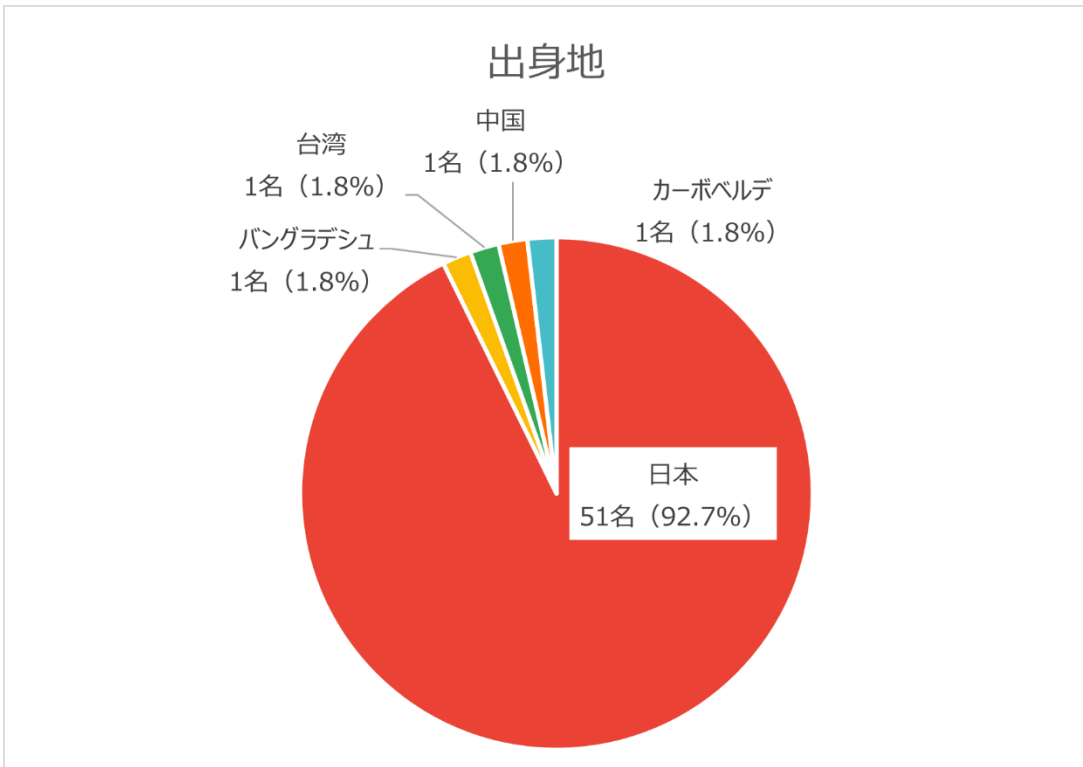


図2 回答者の出身地

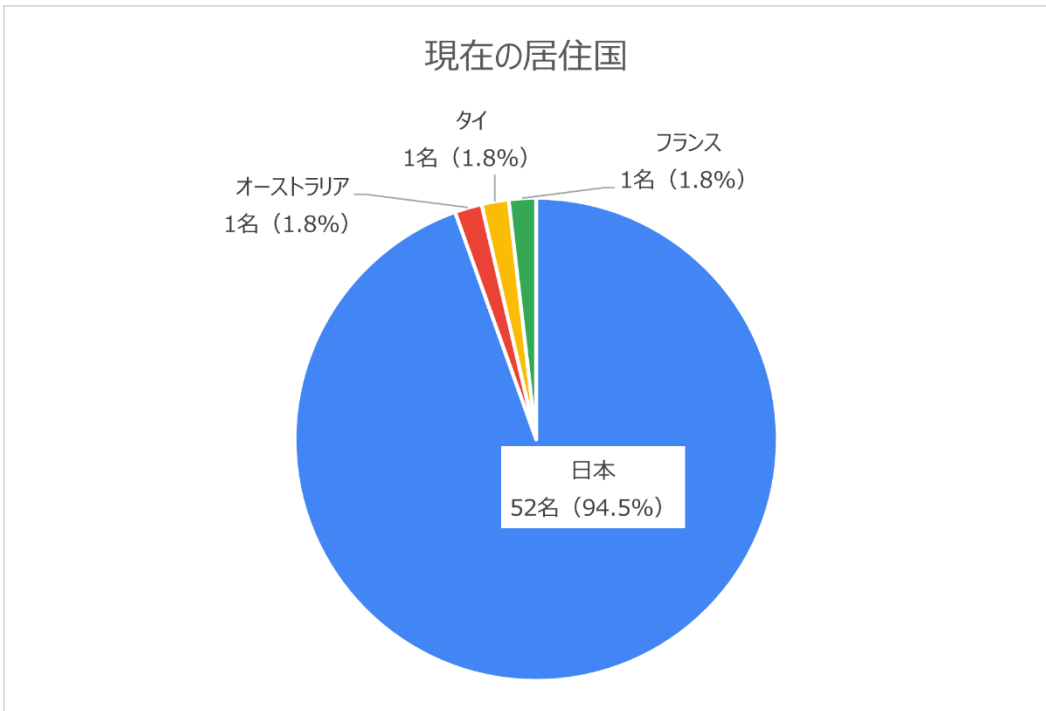


図3 現在の居住国

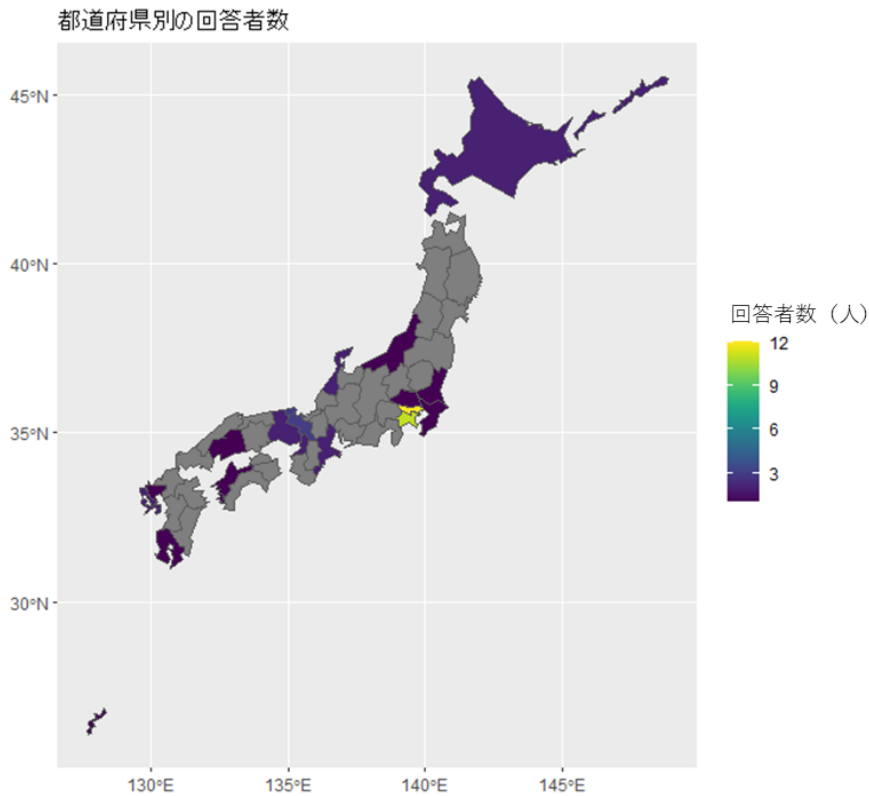


図4 日本在住の回答者について、居住する都道府県の分布。回答者がいなかった都道府県は灰色で示した。

最終学歴と含まれるセクター

回答者の最終学歴について、博士相当が最も多く、37名（67.3%）であった（図5）。修士相当、大学学部卒はそれぞれ11名（20.0%）、6名（10.9%）であり、高等学校卒の回答者は1名（1.8%）であった。

含まれるセクターとして、海洋科学を選択した回答者が最も多く、36名（65.5%）であった（図6）。その後、回答が多い順に海洋産業（11名、20.0%）、海洋管理・政策（10名、18.2%）、海洋文化/教育（8名、14.5%）と続いた。

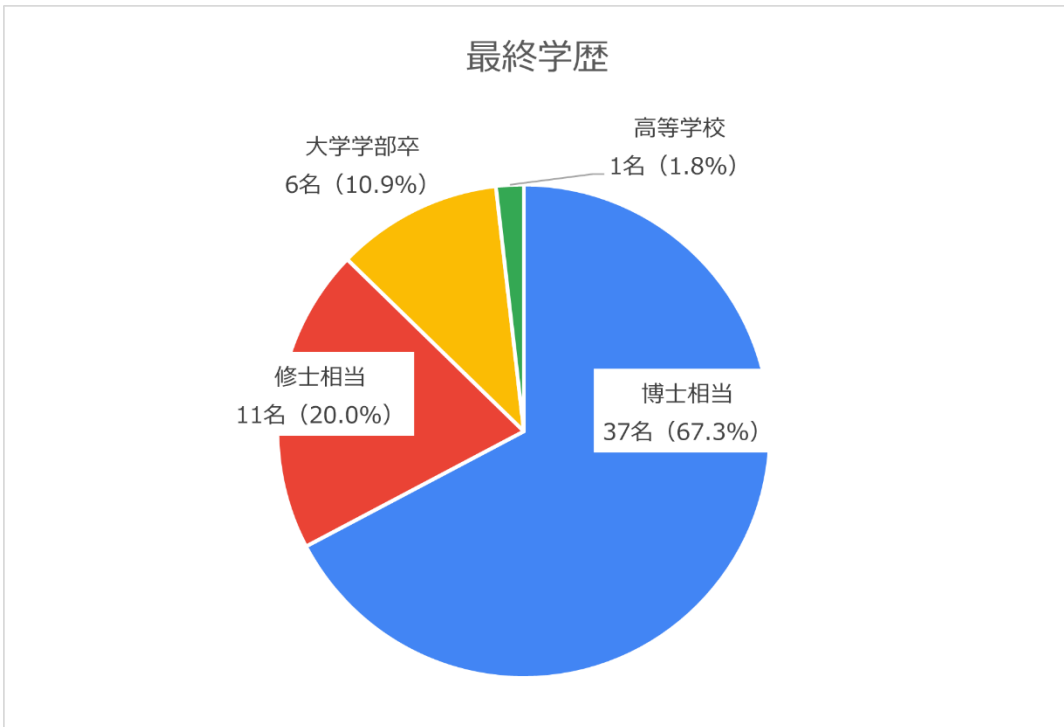


図5 回答者の最終学歴

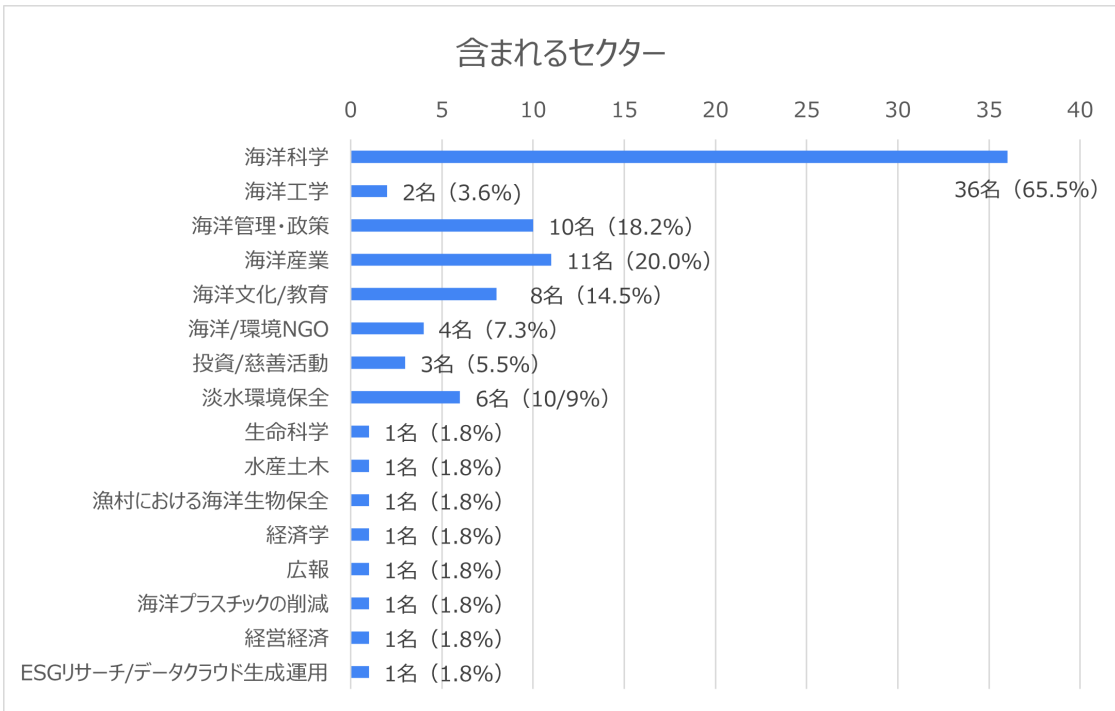


図6 含まれるセクター

海洋10年の認知度とECOPに含まれるかどうか

海洋10年について、「よく知っており、参加している」と答えた回答者は13名（23.6%）であった（図7）。最も高い割合を示したのは「聞いたことはあるが活動やプログラムに参加したことはない」で、27名（49.1%）であった。「聞いたことはあるがそれ以上知る

うと思ったことはない」「聞いたことがない」はそれぞれ5名（9.1%）、10名（18.2%）であった。

「ECOPに含まれる」と答えた回答者は37名（67.3%）、「含まれない」と答えた回答者は16名（29.1%）であった。なお、ここでのECOPの定義は「分野やセクター・雇用形態に関わらず、海洋に関する専門経験が10年以内の方々」とした。

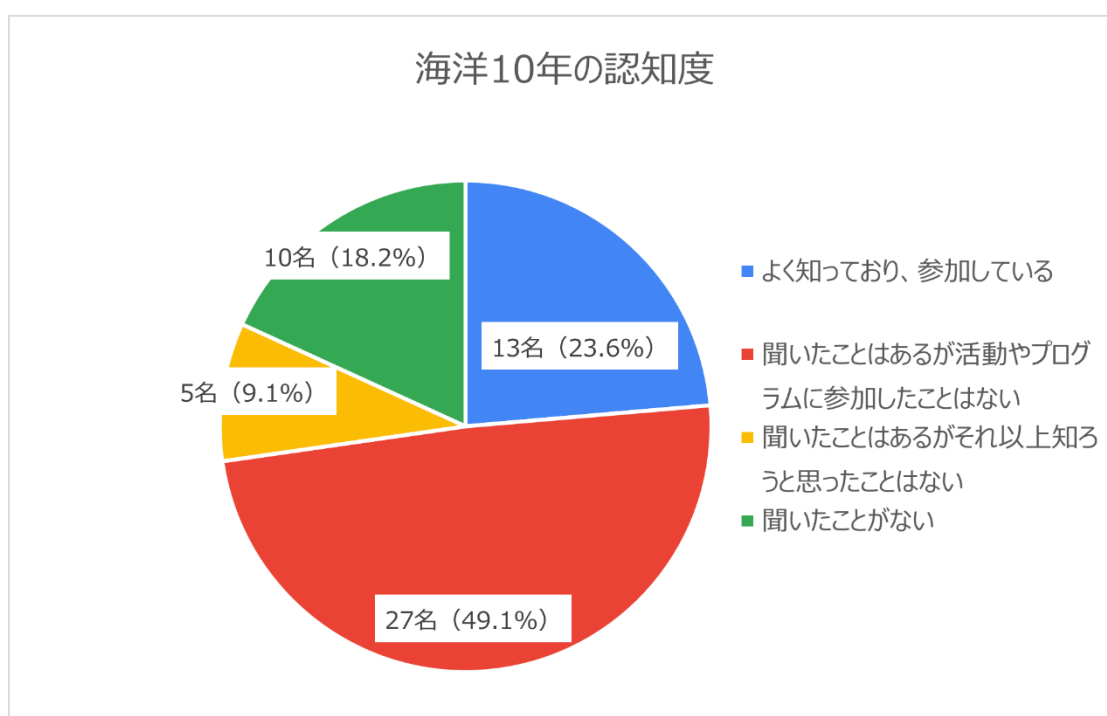


図7 海洋10年の認知度

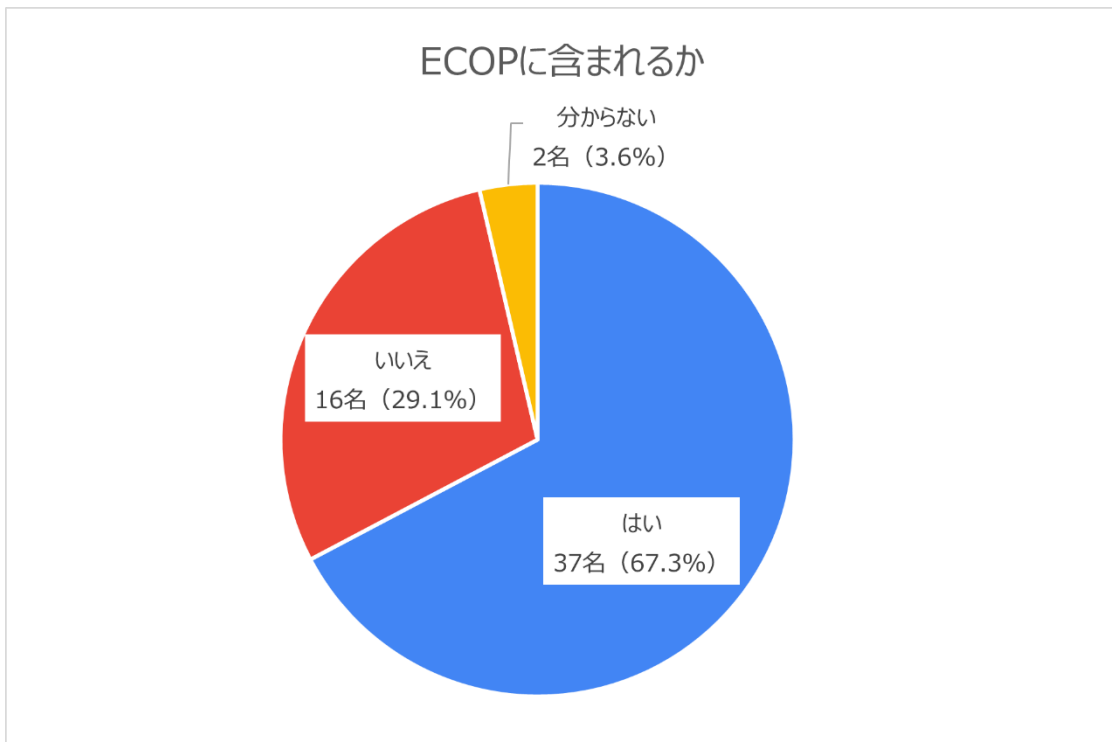


図8 ECOPに含まれる回答者の割合

海洋10年が目指す成果との関わり

海洋10年の目標である「7つの海」のうち、自身の活動と関係するものとして最も多く挙げられたのが「健全かつ回復力の高い海」で、33名（60.0%）であった（図9）。それに加えて、「夢のある魅力的な海」が25名（45.5%）、「生産的な海」が23名（41.5%）であった。回答数の少ないものとして、「きれいな海」と「安全な海」がともに14名（25.5%）であった。

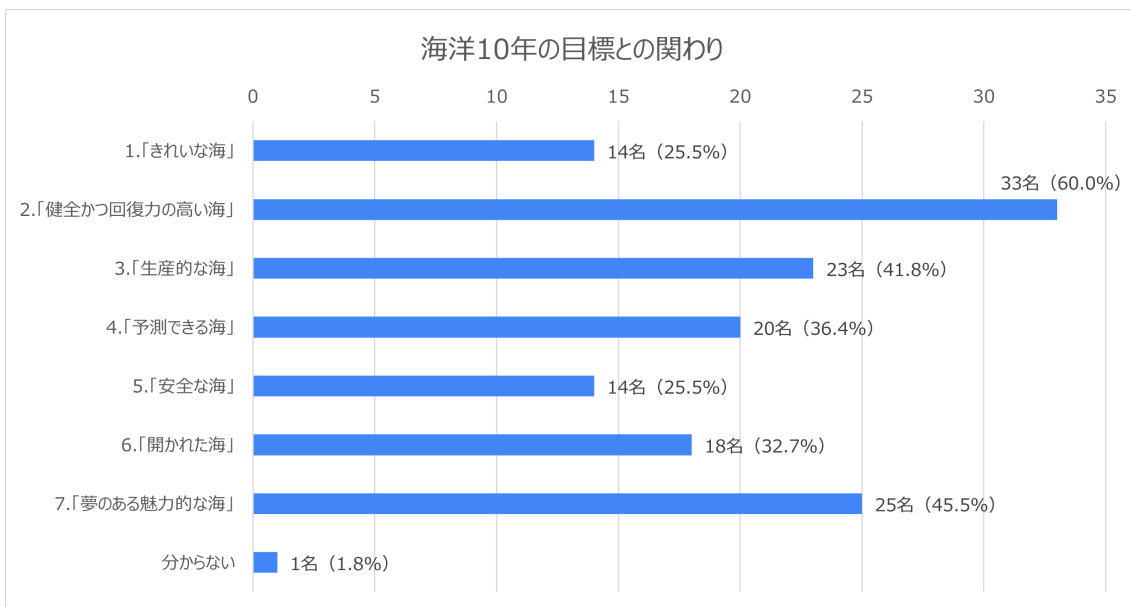


図9 海洋10年が目指す「7つの海」との関わり

ECOP Japan が抱える課題と今後の活動への期待

海洋10年に貢献する上で障壁になっているものとして、最も多く上げられたのが「資金的援助の不足」(31名、56.4%)であり、次に「情報の不足」(28名、50.9%)、「トレーニング機会の不足」(22名、40.0%)、「キャリア機会の不足」(19名、34.5%)と続いた(図10)。

ECOP の活動に参加する上での障壁となっているものに関する回答として、「どのように参加してよいか分からない」、「このチームの目的や参加する意義が分からない、自分が参加できるかどうか分からない」、「関係情報を受け取るチャンネルの不足」がそれぞれ32名(58.2%)、21名(38.2%)、20名(36.4%)という意見が多かった(図11)。

ECOP Japan に期待する活動として、「研究者・専門家・NGOなどによるウェビナー」「ECOP間の交流」という回答がそれぞれ33名(60%)、29名(52.7%)と過半数を超えていた(図12)。その他、「雇用期間の紹介」が22名(40.0%)、「海洋に関する機関の紹介」が20名(36.4%)と、設定した選択肢のすべてが35%を上回る結果となった。

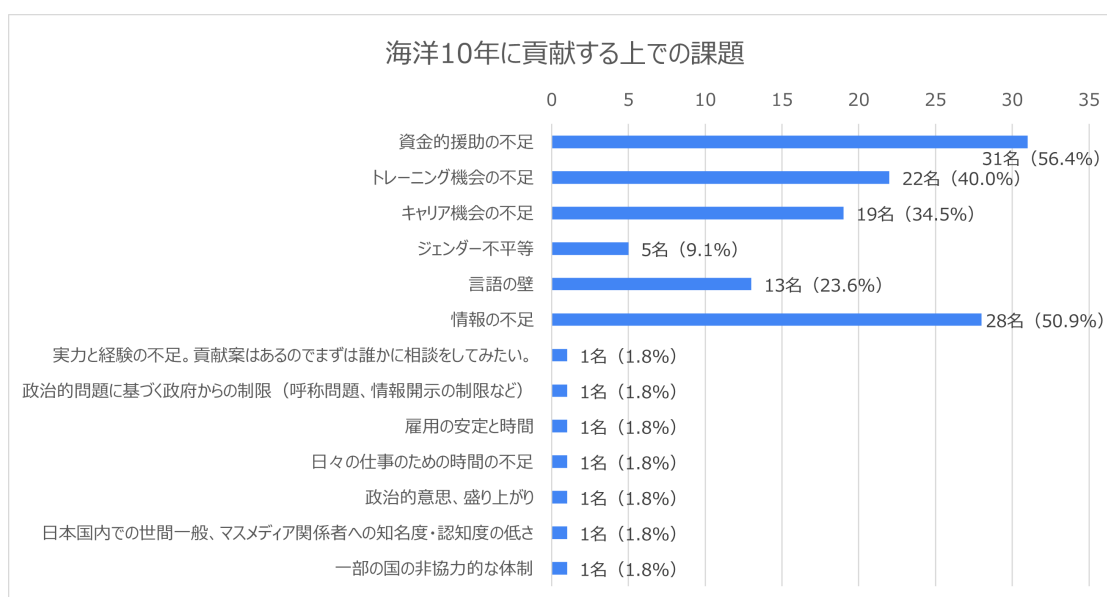


図10 海洋10年に貢献する上での課題

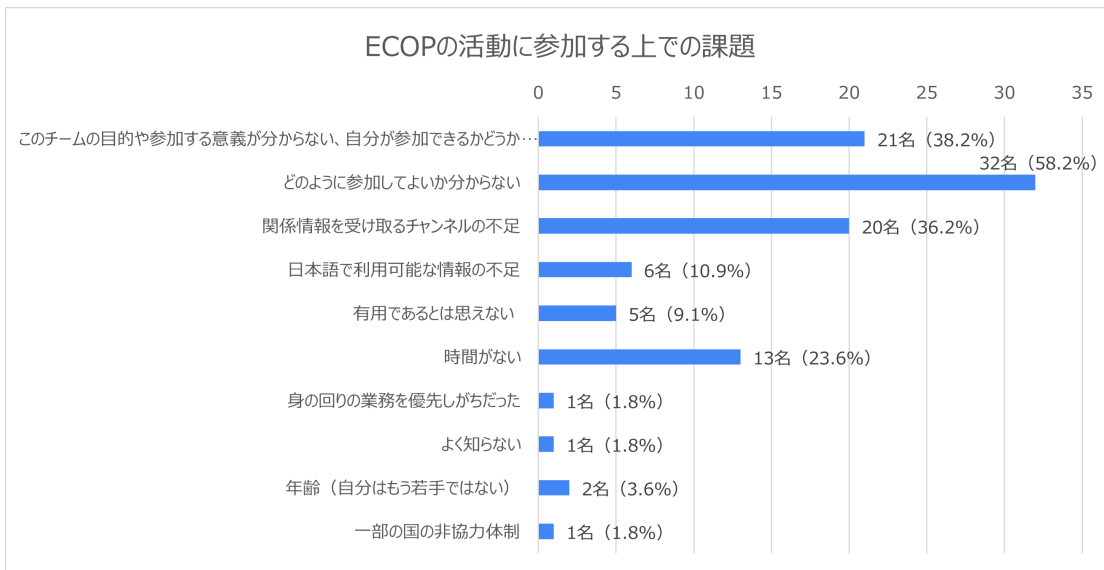


図11 ECOPの活動に参加する上での課題

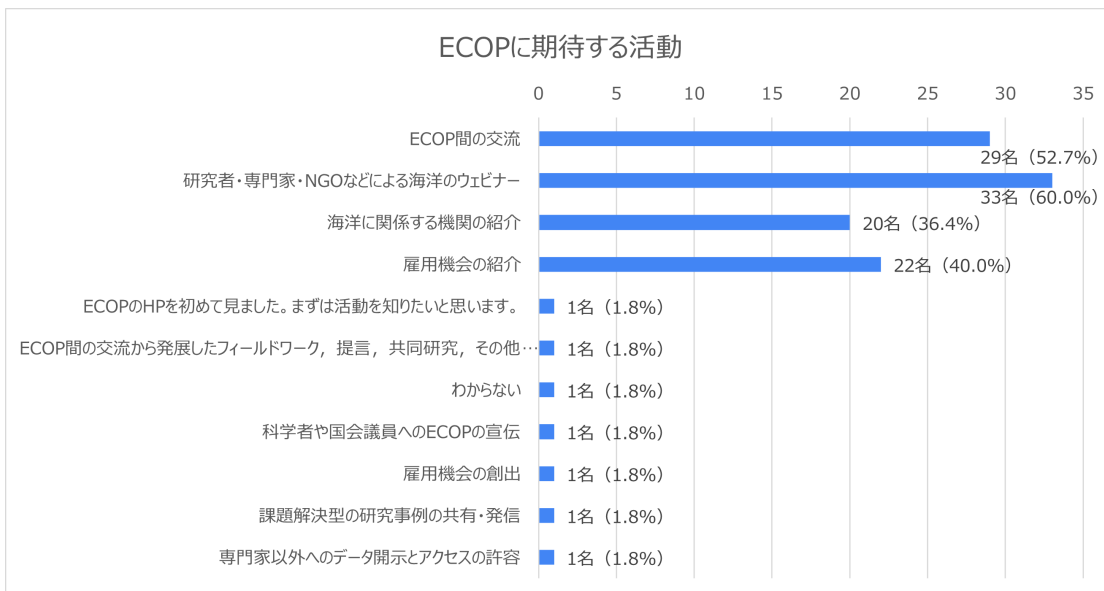


図12 ECOP Japan に期待する活動

海洋あるいは若手専門家に関する活動・ネットワーク

回答者のうち、34名（61.8%）が海洋あるいは若手専門家に関する活動・ネットワークに参加していた（図13）。参加している活動・ネットワークとして、各種学会の若手の会や、民間企業で構成されるアライアンス、また分野横断的な研究プロジェクトなどの名前が挙げられた（表1）。

海洋に関係する、あるいは若手専門家に関する
活動・ネットワークに参加しているか

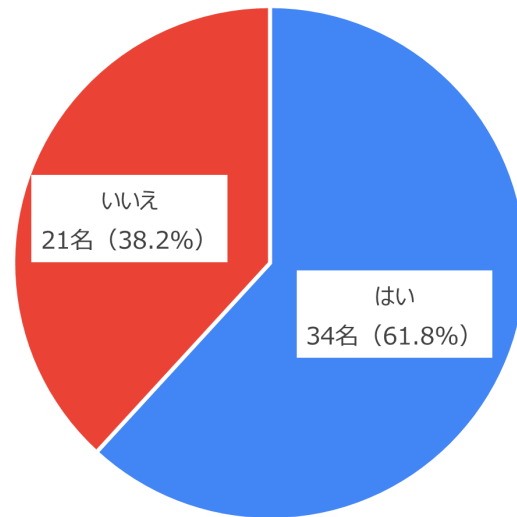


図13 海洋あるいは若手専門家に関する活動・ネットワークへの参加有無

表1 海洋や若手専門家に関する日本の活動やネットワークの回答例と、関連するWebサイト（確認できたもの）

活動・ネットワーク名	リンク
一般財団法人ブルーオーシャン・イニシアチブ	https://blueocean-initiative.or.jp/
Early Career Ocean Professional Programme (ECOP Programme)	https://www.ecopdecade.org/
Scientific Committee on Oceanic Research (SCOR) WG, Ocean Prediction	https://scor-int.org/work/groups/
日本プランクトン学会 若手の会	https://sites.google.com/view/plawakate2014
Southern Ocean Observing Systems	https://www.soos.aq/
日本海洋教育学会	https://sites.google.com/view/japan-soe
日本海洋政策学会	https://oceanpolicy.jp/
三重県鳥羽市レッドデータブック	
三重県レッドデータブック貝類部会	

North Pacific Marine Science Organization (PICES)	https://meetings.pices.int/
日本水産学会	https://jsfs.jp/
日本海洋学会 若手の会	https://kaiyo-gakkai.jp/jos/
笹川平和財団海洋政策研究所 (OPRI)	https://www.spf.org/opri/
Second Cooperative Study of the Kuroshio and the adjacent regions (CSK-2)	https://ioc-westpac.org/csk2/
グローバルコンパクトジャパン	

ECOP Japan が果たすべき/果たしうる役割

ECOP Japan独自の質問として、世界的なECOP の取り組みの中でECOP Japan が果たすべき、あるいは果たしうる役割について、自由記述形式で尋ねた。その結果、国内の事例取りまとめや海外との連携促進、海洋10年の普及など、様々な意見が得られた（表2）。

表2 世界的なECOPの取り組みの中で、ECOP Japanが果たすべき/果たしうる役割

文科省と掛け合って大学院生の金銭的支援を充実させる手助けとなってほしい（海外/先進国ではPhD学生は給与をもらって海洋研究に専念できる環境を構築している）
日本人の学生や若手研究者への情報伝達
海外のネットワーク間のカウンターパートとしての役割、国内の若手研究者だけでなく日本の将来を提示し牽引する役割
海洋10年の意義・目的などについて、潜在的ECOPまたは一般への周知・宣伝。ECOP Japan自身の周知・広報
アジア諸国は、プラスチックごみなど汚染に関する認識が欧米に比べかなり弱い。ただ、大量生産・消費の意識や文化的にシングルユースプラスチックが深く根付いていて無自覚さゆえでもあり、古くから海に恩恵を受けている生活様式であることも考えるとそれだけ啓発による改善のポテンシャルが高い。人口が多いアジア諸国の意識が変わることは意義深い。日本も欧米に比較すると意識はあまり高くないが、それでもムーブメントは高まっており、ECOP Japanは他のアジア諸国を巻き込んで啓蒙活動すべきである。
日本の事例を海外に発信し、海外の事例を日本に紹介してほしい
Leading role in funding and capacity building in the Indo-pacific region
定期的かつ継続的な活動

Introduce that OCEAN is connecting everyone with everything.
全国の漁村における問題解決（漁業の後継者不足、販路拡大など）
海洋リテラシーの普及
海洋科学における基礎研究の充実
東アジアの複雑で入り組んだ海洋課題と解決に向けた科学・エビデンスベースの取り組み
地球規模の”豊かな海”の再定義に向け、海洋立国としてのプレゼンスとリーダーシップの発揮
国内の研究成果の国際的な場での積極的な発信 / 将来、国際的な課題解決に貢献できる人材になるため提供されるトレーニング機会を積極的に活用し能力開発やネットワーキングに努める / 他国(特にSIDSや途上国)のECOPとの共同研究促進を通じた全球的なUNDOS達成への貢献
影響評価手法等に関する産業と連携したグローバルスタンダードの提唱
海洋国家としての強いリーダーシップ（政府、行政含め）
Promote networking activities between regional ECOPs group, to organize seminars and training opportunities. As a developed island nation, support and foster SIDS related activities.
陸域の気候変動対策（緑の流域治水）との接続で、海域の生態系への影響を調査し公表すること

考察

本オンライン調査の実施にあたって、無作為抽出ではなくECOP Japan コーディネーターが繋がりを持つネットワークでの展開を行った。この方式を採用したことから、オンライン調査の対象が特定の分野・集団に限られる、回答者数100名以下と少ない、などバイアスに注意する必要がある。しかし、同様のECOPを対象とした調査がこれまで数多く実施されていないため、貴重なデータと言える。

回答者の構成について、2022年に実施されたECOP Asia のオンライン調査における日本からの回答者数は28名であり、今回の調査の回答者数（55名）は約2倍となった。これは日本におけるネットワークの拡大を示唆している。一方で、2022-2023年にかけて実施されたECOP ChinaやECOP Indiaのオンライン調査における回答者数は、それぞれ75名、124名であった。人口に違いはあるものの、ECOP Japanとしてさらなる拡大が求められる。

回答者の多くが日本出身あるいは日本居住であり、約4割が東京都・神奈川県に集中していた。オンライン調査の発信元がこれらの地域であることが理由の一つである。また、回答者がいない地域として、東北地方や海に面していない県などが挙げられる。今後、こうした地域に積極的に働きかけて、ECOP Japan ネットワークを拡大させる必要がある。

最終学歴について、過半数が博士相当の学位を有するという結果が得られた。オンライン調査の配布のために、複数の学会のネットワークを利用したことが理由の一つである。多くの海洋科学者から注目を集めることは、海洋10年の発展のために重要である。一方で、アカデミア以外の分野もまた、海洋10年に貢献しており、こうした分野と積極的にネットワークを構築する必要がある。

さらに、博士号を有する回答者の割合が67.3%であり、他国の調査（例えば、ECOP Chinaは27.6%）に比べて、極めて高いことが見て取れる。また、海洋産業や民間セクターに含まれる回答者が20%と、他国の調査（ECOP Asia 9.0%, ECOP China 13.2%）より多い傾向が見られた。これらの結果は、海洋10年あるいはECOP Japan の活動がセクターを超えて国内の関係者に知られつつあることを示唆する。引き続き、アカデミア以外のセクターに対する普及活動を継続していくことが重要である。

海洋10年の認知度について、2022年に実施されたECOP Asiaオンライン調査では72%の回答者が認知していたのに対し、今回の調査結果では81.8%となり、増加していた。これは国内の関係者・関係機関の積極的な広報活動の成果である。一方で、ECOP ChinaとECOP Indiaのオンライン調査において、回答者の84.2%と92.0%が海洋10年を認知していた。日本における認知度が他国に比べてわずかに少ないが、広報活動の効果が出ていると言える。

国内における認知度が高まっている一方で、「聞いたことはあるが活動やプログラムに参加したことはない」と答えた回答者の割合が47.3%と最も高かった。このことから、海洋10年の具体的な参加方法に焦点を置いて、広報活動を行っていく必要がある。

「7つの海」の目標との関わりについて、今回の調査では「健全かつ回復力の高い海」の割合が最も高く、「安全な海」の割合が最も低かった。ECOP India では「健全かつ回復力の高い海」が最も多く、「開かれた海」が最も少ないのに対し、ECOP Chinaは「健全かつ回復力の高い海」が最も多く、「予測できる海」と「安全な海」が同率で最も少ない。3か国に共通して「健全かつ回復力の高い海」に関わる回答者が最多であった。どの国も豊かで多様な海の生態系を有しており、そのシステムを理解すること、そして人間活動や地球環境変動の影響を適切に評価して生態系のサービスを維持することが重要視されている。今後、海洋10年やECOPの枠組みの中でこれらの国家間の連携（共同研究やプロジェクト、ウェビナーやイベントなど）に向けたテーマを検討する上で、有益な情報である。

一方で、日本と中国では、「安全な海」に関係する回答者が共通して少なかった。これは、海の安全に関わる研究者が少ないだけでなく、海上保安やライフセービングなど海の現場で人々の安全を守るECOPへのアウトリーチが十分でなかった可能性がある。

海洋10年に貢献する上での障壁として、「資金的援助の不足」「情報の不足」「トレーニング機会の不足」「キャリア機会の不足」などが挙げられた。資金的援助について、ボランティアで活動をしているECOPが直接的に実施することは難しい。一方で、情報・トレーニング・キャリアの機会については、ECOPネットワークが支援できる項目である。ECOPコミュニティでは定期的にECOP Newsletterを発行しており、オンラインで参加で

きるトレーニングプログラムやECOPに関連するイベント・雇用情報などを配信している。資金的援助についても、若手専門家向けの旅費援助や研究費援助などの情報を共有している。これらは、ECOP のWebサイトで閲覧可能であり、世界のECOPが情報共有を進めることで、これらの機会により触れられる環境を構築していく予定である。

ECOPの活動に参加する上での障壁について、「どのように参加してよいか分からない」との回答が最も多かった。ネットワークへの参加には様々な形があり、情報提供や収集も参加の1つである。分野横断的なネットワークとするために、ECOP Japanは明確な目的や条件を設定しておらず、「ゆるやかな」繋がりを生み出すことを目指している。分野や年齢、経験にとらわれず、「まずは話を聞いてみる」という考え方で参加してもらいたい。ECOP/ECOP Japan への参加は、[ECOP Japan Webサイト](#)あるいは[Newsletter登録ページ](#)に必要情報を記入することで可能である。

ECOP Japan で行ってほしい活動として、すでにNewsletterを通して実施している海洋関係機関や雇用機会の紹介に加えて、ウェビナーの実施やECOP間の交流を期待する声が多かった。これを受けて、ECOP Japanでは様々な分野で活躍する日本のECOPから各々の取り組みを紹介してもらおうと同時に、今後の方針について議論を行うECOP Japan シンポジウムの開催や、カジュアルな形で参加できるウェビナーの開始などを企画している。適宜、Newsletterなどの媒体で情報を発信していく予定である。

海洋に関係する、あるいは若手専門家に関係する活動・ネットワークへの参加状況について、過半数を超える回答者が参加していないと回答した。具体的に関係する活動・ネットワークとして、学会が多く挙げられていたほか、研究プログラムも見受けられた。これは、回答者の多くがアカデミアに属していることの表れである。このような状況にも関わらず、複数の民間企業で構成されたブルーオーシャン・イニシアチブからの回答が得られていることは重要な一歩である。

世界的なECOPの取り組みの中でECOP Japan が果たすべき/果たしうる役割について、日本の活動事例を海外に発信、あるいは海外の事例を日本で紹介という声が複数寄せられた。また、アジア、太平洋島嶼国、インド洋・太平洋地域など、特定の地域を挙げて協力の推進を期待する声も寄せられた。ECOP Japanとして2023年度までは主に国内向けの活動（ビデオレター、シンポジウムなど）に取り組んできたが、このような期待も受け、今後は他の国や地域のECOPとの連携を進め、世界のECOPの架け橋となる活動を実施する予定である。

まとめ・今後の方針

今回実施したECOP Japanオンライン調査により、サンプル数に制限はあったものの、国内のECOPの現状や課題、期待などを収集することができた。今後の活動方針を検討する上で非常に有益なデータであったと言える。今後は定期的に同様の調査を実施することで、海洋10年やECOPの取り組みが我が国においてどのような成果を出しているのか、評価指標の一つになると考えられる。また、海外で実施された調査結果との比較をその都度行うことにより、共通課題として協力すべき項目や、日本特有の課題として検討すべき項目など、明らかになることが期待される。

本オンライン調査結果を踏まえ、今後の活動方針として、以下を検討している。

- 首都圏以外で活動するECOPへのアウトリーチ
- 「安全な海」に関係した活動を行う日本のECOPとの連携
- アカデミア以外のECOPとの交流推進
- 資金的援助、トレーニング機会、キャリア機会などに関する情報発信
- 日本の取り組みを海外に情報発信、海外の取り組みを国内に情報発信

これらの方針を踏まえ、具体的に以下の活動を実施することを計画している。

- 海洋10年が掲げる7つの海の目標に関わるECOPの活動を紹介し、ECOP Japanの将来を議論するECOP Japanシンポジウムの開催（活動地域、分野、セクターの広がりを持たせる）
- 7つの海の目標に関わるECOP Japan ウェビナーを定期的で開催
- メーリングリストやLINEグループを活用したECOP Japanに関する情報発信
- 他の国 (ECOP KoreaやECOP Chinaなど)や地域 (ECOP AsiaやECOP Africaなど)との意見交換や交流イベント

四方を海に囲まれ、南北に長く多様な海洋環境を有する日本には、様々な分野のステークホルダーたちが海と共に暮らし、海と共に紡いできた歴史がある。そのような多様な分野で活躍するECOPについて、地域やセクターに囚われることなく「ゆるやかな」繋がりを作ること、その中で一人一人の声を集めてスポットライトを当て、しっかりと伝えていくことが、ECOP Japan のミッションである。若手人材不足が叫ばれる我が国の海洋分野を持続的なものにし、ひいては国際社会への貢献を目指す上でも、このように今までになかった繋がりを作っていくことが最初のステップである。海洋という共通項のもと、各々の専門領域を尊重し、持続的なやり方を模索しながら、少しずつ連携を広げていきたい。

謝辞

本調査の実施にあたり、ECOP Asia コーディネーターのRaphael Roman 氏には質問の内容や他オンライン調査との整合性、さらには結果の解釈に至るまで多様なサポートをいただいた。ECOP コミュニケーションコーディネーター のNatalie Fox 氏には情報発信について多大な協力をいただいたほか、グローバルコーディネーターのEvgeniia Kostianaia 氏からは包括的な視点から有益なアドバイスをいただいた。本調査に回答いただいたすべての方々、ならびに配布に協力いただいた方々に心より感謝申し上げます。

参考文献

- Raphaël Roman, ECOP Asia Intermediary Report, 14 April 2022, <https://www.ecopdecade.org/wp-content/uploads/2022/08/ECOP-Asia-Intermediary-Report-public-version2.pdf> [Accessed on 19 November 2023]
- Raphaël Roman, 2022-2023 ECOP Asia Report, 8 June 2023, https://www.ecopdecade.org/wp-content/uploads/2023/06/ECOP_Asia_Report_June_2023.pdf [Accessed on 19 November 2023]
- Chunhua Jian & Raphaël Roman, 2022-2023 ECOP China Report, 20 June 2023, https://www.ecopdecade.org/wp-content/uploads/2023/06/ECOP-China_final-version.pdf [Accessed on 19 November 2023]
- Debarati Sengupta & Raphaël Roman, 2022-2023 India Survey Report, 13 June 2023, https://www.ecopdecade.org/wp-content/uploads/2023/06/ECOP_India_Report_final_version_2.pdf [Accessed on 19 November 2023]

お問い合わせ

ECOP Japan コーディネーター（田中広太郎、森岡優志）
japan@ecopdecade.org

付録

ECOP Japan オンライン調査 質問内容

ECOP Japan オンライン調査 ECOP Japan survey 2023

国連海洋科学の10年による海洋若手専門家（ECOP）のアンケート調査にご協力くださり有難うございます。本調査の所要時間はおよそ5分です。本アンケートはECOP 日本ノードにより作成され、日本のECOPに関する現状や課題、将来の期待などを収集して今後のECOPの活動に繋げることを目的としています。調査結果は、ニュースレターやシンポジウムなどを通して皆さまにお知らせする予定です。本調査で収集した情報の取り扱いに関しては、ECOPのプライバシーポリシーに従います。ご質問やご不明点などございましたら、japan@ecopdecade.org までお問合せください。

*: 回答必須

This online survey is brought to you by the Japan node (ECOP Japan) of the Early Career Ocean Professionals (ECOP) Programme, which was endorsed by the UN Decade of Ocean Science for Sustainable Development (“UN Ocean Decade”) in June 2021. Through this survey, we aim to gather information on the status, challenges, and future expectations of ECOPs in Japan and Japanese ECOPs residing abroad, and to link this information to guide future activities. We would highly appreciate your participation in this survey, which should take around 5 minutes to complete. We are planning to report the results and insights back to you, through the ECOP newsletter and ECOP Japan symposium, which is tentatively scheduled for early 2024. The collected information will be properly treated under ECOP’s data privacy policy. For any inquiries on the survey and our ECOP Japan node, contact us: japan@ecopdecade.org.

*: Answer required

1. 性別 Gender*
 - 男性 Male
 - 女性 Female
 - その他 Other
 - 回答を希望しない Prefer not to answer
2. 出身国 What is your nationality?*
3. 現在の居住国 What is your current country of residence?*
4. お住まいの都道府県（日本居住の場合）
Which prefecture are you based in (If you live Japan)?

(ここに記述 Describe here)

5. 最終学歴 What is your highest level of education achieved/completed?
- 9年間の義務教育 Nine-year compulsory education
 - 高等学校 High school
 - 短大/専門学校 Junior college/community college
 - 大学学部卒 Undergraduate degree
 - 修士相当 Master degree
 - 博士相当 PhD
6. 含まれるセクター (複数選択可) *
What sector(s) are you involved in? (select all that apply)
- 海洋科学 Marine science
 - 海洋工学 Marine engineering
 - 海洋管理・政策 Marine management and policy
 - 海洋産業 Marine industries
 - 海洋文化/教育 Marine culture and/or education
 - 海洋/環境NGO Marine/Environment NGOs
 - 投資/慈善活動 Investment/Philanthropy
 - 淡水環境保全 Freshwater environmental protection
 - その他 Other (自由記述 Free description)
7. 国連海洋科学の10年について、どの程度ご存知ですか? *
Which one best describes your understanding of the United Nations Decade of Ocean Science for Sustainable Development (2021-2030)?
- よく知っており、参加している
I know a lot about it and participated in it
 - 読んだことはあるが活動やプログラムに参加したことはない
I read about it but never participated in related activities or programs
 - 聞いたことはあるがそれ以上知ろうと思ったことはない
I have heard about it but never try to know more about it
 - 聞いたことがない
I've never heard of it
8. 国連海洋科学の10年が目指す社会的成果である「7つの海」のうち、ご自身の活動に最もあてはまるものはどれですか? (複数回答可) *
In which of the UN Ocean Decade Outcomes is your primary area of involvement? (Select all that apply)
- 成果1: 汚染源を特定し、削減、除去した「きれいな海」
Outcome 1: A clean ocean where sources of pollution are identified and reduced or removed
 - 成果2: 海洋生態系の理解、保護、復元、管理が進んだ「健全かつ回復力の高い海」
Outcome 2: A healthy and resilient ocean where marine ecosystems are understood, protected, restored and managed
 - 成果3: 持続可能な食料供給及び海洋経済を支える「生産的な海」
Outcome 3: A productive ocean supporting sustainable food supply and a sustainable ocean economy
 - 成果4: 社会が海洋状況の変化を理解し、対応することができる「予測できる海」

Outcome 4: A predicted ocean where society understands and can respond to changing ocean conditions

- 成果5: 海洋の危険から生命及び暮らしが守られる「安全な海」

Outcome 5: A safe ocean where life and livelihoods are protected from ocean-related hazards

- 成果6: 全ての人々がデータ、情報、技術、イノベーションに平等にアクセスできる「開かれた海」

Outcome 6: An accessible ocean with open and equitable access to data, information and technology and innovation

- 成果7: 人の幸福と持続可能な開発に関連して社会が理解し、価値を認める「夢のある魅力的な海」

Outcome 7: An inspiring and engaging ocean where society understands and values the ocean in relation to human well-being and sustainable development

- 分からない I don't know/not sure

9. あなたは海洋若手専門家 ECOPに含まれますか? (ECOPとは、分野やセクター・雇用形態に関わらず、海洋に関する専門経験が10年以内の方々を指します) *

Do you self-identify as an Early Career Ocean Professional (ECOP)? An ECOP is a person who self-identifies as being early in their career (i.e., 10 years or less of professional experience, within any field and sector related to the ocean, not only employed/paid positions).

- はい Yes
- いいえ No
- 分からない I don't know/not sure

10. 海洋科学の10年に貢献する上での障害となっているものは何ですか? (複数回答可) *

What barriers constrain your ability to contribute to the UN Ocean Decade? (Select all that apply)

- 資金的援助の不足 Lack of funding
- トレーニング機会の不足 Lack of training opportunities
- キャリア機会の不足 Lack of career opportunities
- ジェンダー不平等 Gender inequality
- 言語の壁 Language barrier
- 情報の不足 Insufficient information
- その他 Other (ここに記述 Describe here)

11. ECOP の活動に参加する上での障害となっているものは何ですか? (複数回答可) *

What barriers constrain your participation in the ECOP Programme? (Multiple choices)

- このチームの目的や参加する意義が分からない、自分が参加できるかどうか分からない
I don't know the purpose of this team and the meaning of my participation, and I'm not sure if I can participate
- どのように参加してよいか分からない
I don't know how to participate in the Programme
- 関係情報を受け取るチャンネルの不足

- Lack of channels to receive relevant information
 - 日本語で利用可能な情報の不足
 - Lack of information available in Japanese
 - 有用であるとは思えない I don't think it is useful to me
 - 時間がない I don't have time for it
 - その他 Other (ここに記述 Describe here)
12. ECOP Japan で行ってほしい活動は何ですか? (複数回答可)
What kind of activities would you like ECOP Japan to organize in the future?
(Multiple choices)
- ECOP間の交流 Academic salon between ECOPs
 - 研究者・専門家・NGOなどによる海洋のウェビナー
Webinars about scientific tools, ocean research topics and NGO-related work, etc.
 - 海洋に関係する機関の紹介 Introduction of ocean-related institutions/labs
 - 雇用機会の紹介 Introduction of job opportunities
 - その他 (自由記述) Other (Free description)
13. 海洋に関係する、あるいは若手専門家に関係する活動に参加していますか? *
Are you part of any Ocean related and/or Early Career Networks and Initiatives?
(Including UN Decade Actions)
- はい Yes
 - いいえ No
14. 質問13に「はい」と答えた方へ: 参加している活動・ネットワークの名前や主な
取り組みの分野について教えていただくことはできますか?
If you answered "Yes" to Question 13, can you share their name(s) and key focus
area(s)?
自由記述 Free description
15. 世界的なECOPの取り組みの中で、ECOP Japanが果たすべき/果たしうる役割は
何だと思えますか?
What role do you think ECOP Japan should/could play in global ECOP initiatives?
自由記述 Free description
16. ECOP としての登録を希望されますか? ご希望の場合、お名前とEmailアドレス
をお知らせください。
Are you willing to register as an ECOP? If yes, please provide your Name and
Email address.
氏名 Name
Eメールアドレス Email address
17. その他ご希望やご質問、コメントなどございましたらご自由に記述ください。
Any other thoughts, comments, or questions you would like to share with us?
自由記述 Free description